

■企業ヒアリング調査結果について

<調査概要>

- ・2022年8月～9月にかけて、直接訪問・オンライン・本学への来校時にて調査を実施。
- ・業種は金融・インフラ関連・製造・メディア関連など6社。
- ・指標として社会人基礎力の12項目を基にヒアリング調査を行った。

<調査結果について>

今回卒業生の在籍する企業の人事担当者や直接またはオンラインにて、本学学生の入社後の様子の確認、コロナ禍での期待人材の変化や希望などをお伺いすることができた。今回は職種的に営業・渉外系といった人と積極的に接する仕事を担っている卒業生が多く、対人基礎力の要素である親和力、協働力を発揮し、顧客だけでなく社内からの評価も高い社員が多いというお声を複数の企業様からいただいた。コミュニケーション能力の点では特にスポーツを幼少期より長く続けている学生はストレス耐性を含め高いことに対し高評価をいただいていることなども確認することができた。

一方学生時代に身につけておいて欲しい能力は、対課題基礎力の要素である課題発見力(4社)、計画立案力(1社)、對自己基礎力の要素である感情抑制力(1社)、行動持続力(1社)の項目が挙げられた。与えられた課題をこなすだけでなく、自ら情報を収集し、原因分析を行い、行動計画を立て行動することやこれらの能力を高めるため取り組みをゼミ活動、インターンシップ、アルバイト、部活動などの活動を通じて経験しておくことの必要性をお話しいただいた。また、数字を読む力、エビデンスを提示しながら相手に物事を論理的に伝える力を磨くことも大切であるというお考えもいただいた。

また社会に出てからも学び続けること、その学習習慣や学びにおける成功体験(学生時代に難関資格に合格する、学びから成長実感を得る機会)を積むことができるとこれからのキャリア形成においてより有意義な人生を送ることにつながるのではないかというご意見もいただいた。働くことについての学生の本質的な理解や生涯に渡って自らがキャリア形成における主役であることもキャリア教育において継続的に伝え続けていくことが重要であることを再認識した。今回の調査結果を今後の教育活動にしっかりと役立てていきたい。